

【午後】セミナー会場候補訪問

	カンファレンス・パッケージ料金	立地	会議室
Coconut Glove Hotels	150 セディ (約 35 米ドル) /人	昨年度の会場。省庁からのアクセスが良く、省庁関係者の利用が多い。	
Movenpick Hotel	70 米ドル /人	Coconut Glove から近い。内装は華やか。他の援助機関 (USAID 等) も使用。	
La Palm Hotel	240 セディ (約 50 米ドル) /人	アクラの中心地からやや離れている。ビーチ沿い。	

Golden Tulip  
Hotel

20 米ド  
ル／人

アクラ空港か  
ら近いが、省庁  
街からはやや  
遠い。



日時	2017年5月18日（木）9:00～10:00
訪問先	ガーナ大学応用科学技術研究所 (University of Ghana, Institute of Applied Science and Technology, College of Basic and Applied Sciences)
面談相手	Prof. George Oduro Nkansah (千葉大に留学経験有)
当方	山本 (みずほ情報総研 (MHIR) コンサルタント)

- 本学は昨年のガーナにおける研修・セミナー共に参加している。昨年のレポートを基に今年度の対象セクターを決めるに良いのではないか。レポートはヨシケントラベルの田村氏も持っている。
- 大根をリフトアップする機械はキャッサバの収穫に応用可能。
- 本研究所は政府の「One District, One Factory」の調査を手がけている。
- 「One District, One Factory」は4年内に実現しなければならない公約で、現政権にとっての残り時間は3年間。2018年には何らかの成果を出したい。
- ガーナには216のdistrictがあるが、まだどういう分野の工場を建設するかは決まっていない。
- 候補として考えられるのは、キャッサバのプロトタイプマシン、メイズの加工機、ツナの缶詰等。
- ガーナにおいて、キャッサバは重要な作物。乾燥や保存、加工等。
- その他、大豆の収穫機、コメやメイズの機械（水分を飛ばす機械等）、粉碎機、製粉機
- ガーナ輸出入銀行だけでなく、農業開発銀行 (ADB: Agriculture Development Bank) や他の銀行も参加する予定。
- セミナーには、製造業者（農機製造メーカー含む）や農業生産者、漁業関係者、コメ関係者等を招くというのは良いと思う。
- 本研究所が持っている企業リストもあるが、昨年に続いて今年も同じ企業を同じ内容で呼ぶのはばかられる。何か具体的な進展を見せたい。
- 昨年のみずほが発表したEco-Pactに関心を示す企業もある。
- ガーナ企業が日本企業とビジネスをするにあたっては、日本側の基準、規制も知りたい。
- 農業省が掲げる重点作物はコメ、メイズ、大豆、ソルガム、野菜（トマト、唐辛子、キヤベツ、玉ねぎ等）
- また、農業省は「Planting For Food and Jobs」を掲げており、農業は雇用創出の面でも重要。
- コメは生産量が低く、コメ作のインセンティブを欠いている。機械化も遅れており、南と北では差異がある。（南はジャスミン米好み、北はパーボイル米好み）
- コメの加工ではレバノン企業も参入している。彼らは本国でローンをしてからガーナに来ている。
- ガーナで土地を利用するに当たっては、現地のチーフと合意しておく必要がある。

- ガーナで機械を製造する、又は売り出すのであれば、部品の調達等も含めたパッケージとして展開しなければならない。ビジネスがどれだけペイできるか、どうペイするかが重要。
- バリューチェーンには交通、気候変動への対応も含まれる。
- 実際のマッチング例として、ガーナ人スタッフを常駐させるインフォメーション・デスクを設置するという案もある。実際、本研究所では「One Stop Shop」としてキャッサバ・デスクを設置しており、インターンがキャッサバのバリューチェーンに関わる情報（技術、ファンド等）を提供している。



ガーナ大学応用科学技術研究所

日時	2017年5月18日（木）11:00～11:30
訪問先	METRACLARK（漁業用冷蔵設備、エアコン等の販売業者）
面談相手	Patrick Ampomah
当方	山本（みずほ情報総研（MHIR）コンサルタント）

- 当社は南アフリカ本社の企業であり、ガーナ支店の取り扱い商品の選定はすべて本社で行っており、支社に決定権は無い。
- ガーナでは2年前からビジネスをしており、テーマの冷蔵設備会社にも多く卸している。
- 取り扱う冷蔵設備は家庭用の小規模なものから業務用の大規模なものまで幅広い。
- 日本製の商品の取り扱いは今の所無い。
- 商品の提供だけでなく、メンテナンスサービスも行っている。
- 南アフリカ本社の西アフリカ担当者の連絡先は以下のとおり。

Paul Ras, West Africa Regional Sales Manager

Address: 2 Astron Road, Denver, Johannesburg

Phone: +27 11 620 0319

Fax: +27 86 567 1639

Mobile: +27 61 506 0303

E-mail: [Paul.Ras@metraclark.co.za](mailto:Paul.Ras@metraclark.co.za)

Web: [www.metraclark.co.za](http://www.metraclark.co.za)

日時	2017年5月19日（金）10:00～11:00
訪問先	SEAPRO TRADE（ガーナ漁業業者、前川製作所紹介）
面談相手	Kevin Frank Amoh, C.E.O. Kwadwo Amoh Mensah, General Manager
当方	山本（みずほ情報総研（MHIR）コンサルタント）

- 当社では今後生産サイドを広げたい。候補地はアクラの北部と西部の2か所。
- 2017年3月に日本で開催されたFOODEXに参加した。その際、JBICのスタッフと会談したが、JBICのプロジェクトに応募するには日本企業のパートナーが必要と聞いた。前川製作所は冷凍設備の製造者でサプライヤーなので、パートナーにはなり難い。養殖業を共にできる企業を探している。
- 東京産業株式会社（機械総合商社、所在地：東京都大手町）と前川製作所の推薦でパートナー企業の候補として、KOHYOの名前が挙がっているが、東京滞在日数が足りず、未接触である。したがって、どのような企業でもガーナに来る意思があるのであれば、JBIC案件のパートナーになってもらいたい。
- 日本では、Equator Japan LLCという会社がビジネス支援をしており、JBICへも一緒に行った。
- グローバルフードバリューチェーンプロジェクトでは、輸入と輸出の両方に関心がある。
- 加工では煮る、焼く、燻製する、缶詰にする等。（①鮮魚加工→②燻製、焼いた加工品→③乾燥、塩漬け乾燥した加工品）
- ツナで鰹節が作れないかと考えている。そのためには日本人技術者から技術を学ぶ必要がある。
- 加工技術については、JICAのノウハウを内部に技術者を呼んで習得したい。
- 加工品の基準については、ガーナ基準局（Ghana Standards Authority）が決める。同局はEUのスタンダードを基本としている。
- -60度で冷凍した魚であれば刺身用として日本に輸出することができる。
- ただし、加工サイドよりも生産（養殖）を優先させたい。
- ゆくゆくは加工施設と養殖施設を両方設置する。加工機械はPROSYSTAS社（食品工場作りの会社、所在地：東京都東村山市）のものを入れたい。
- ガーナの湖の面積はアフリカ有数で養殖業に適しているが、実際のオペレーションは小規模なので、大規模養殖を開発したい。
- 養殖するのはティラピア、ボルタパーチ（ナイルパーチ）、ベトナム等で食べられているバサ（Pangasius Fish）等
- 当社のプロジェクトビジネス計画がまもなく完成する。
- ガーナ政府の「Free Zone Project」に応募する予定。フリーゾーンでは、機器や活動に

ついて関税がかからない。一次産品についても税金がかからない。法人税も10年間免税となる。

- 例えば、チリやノルウェーから鮭を輸入して関税無しで加工・輸出している会社がある。
- フリーゾーンプロジェクトについては、Export Processing Programmeの一環として設立された Ghana Free Zone Board (GFZB)が管轄している。申請は官僚的なプロセスで、ライセンスは年毎に更新される。ガーナ税務当局 (Ghana Revenue Authority) や関税手続も担当者がやってくれる。
- 漁業省が話していたという太陽光電池付きの冷蔵庫について、効果的な機械であるなら歓迎するが、アフリカの暑さでも機能を保持できるか否かが重要。また、太陽電池の価格も重要。
- One District One Factory (ODOF)については、融資ルートが明確でないが、当社のプロジェクトについてプレゼンをする予定。